

私と水俣学：水俣学を構想した理由と経過

1. 私の水俣病への関わり：
 - (ア) 名古屋水俣病を告発する会 水俣病訴訟支援の市民グループ
 - (イ) 東海地方在住水俣病患者家族互助会 1975-76年
2. 水俣学と水俣病研究 (1994年熊本学園大学赴任)
 - (ア) 社会福祉研究所に水俣病研究プロジェクト 1999年(原田正純先生赴任を契機に)
 - (イ) トヨタ財団による研究助成(2000年)、科研費をはじめとする研究助成
 - (ウ) 研究組織：水俣学研究センターの設置(2005年)：大型の研究補助金
 - (エ) 水俣学講義：2002年より開始。さらに大学院社会福祉学研究科福祉環境学専攻修士課程→博士課程。(学部から大学院までの一貫した教育体制の整備)
3. 水俣学研究センターの調査研究活動
 - (ア) 調査研究：熊本短大以来若干の水俣への関わりがあったが、1999年から本格的に
 - (イ) 教育と啓発：上記学部・大学院教育、市民啓発・公開講座、ニュースの刊行など
 - (ウ) 資料収集と公開：水俣病関係の資料の収集：訴訟弁護団資料、労組資料、患者資料、行政資料、学術研究文献とデータベース構築による公開
4. 水俣学の現状とこれからの課題
 - (ア) 水俣病の現状と課題
 - (ア) 水俣および不知火海沿岸という地域と社会
 - (イ) 水俣病をめぐる係争課題
 - ① 被害実態の調査
 - ② 被害者たちの現状を訴訟
 - ③ 地域の課題
 - (イ) 教育と啓発
水俣病および水俣学教育：大学特に学園大学の学部教育、大学院教育
学校教育と公害水俣病：公害・環境教育および人権教育の中での水俣病
市民啓発と人権擁護：社会教育場面での水俣病
 - (ウ) 資料収集と公開
水俣病資料の収集と公開
水俣学データベースと水俣学関連資料収集
新日窒労組資料の整理と公開
資料集編纂事業
5. 水俣・不知火海沿岸地域の住民と社会の課題と水俣病の将来展望